

フレッシュ先生

居場所

西区 指扇中学校

教諭 渡邊 大



感謝

西区 指扇中学校

教諭 佐伯美有



「学校が1番の居場所」であった中学生時代の私にとって、教師になることが、自然と将来の夢になっていた。厳しくも温かい先生方との関わり、友人と過ごす日々、部活動で汗を流し、行事に燃える、そんな学校が大好きだった。

今の子どもたちにとっても、学校が「心地よい居場所」になってほしい、その思いをずっと持ち続けてきた。今、初任者として、教壇に立てることに、毎日幸せを感じるとともに、大切な子どもたちを預かる身としての責任も強く感じている。学級経営、授業、生徒指導、部活動指導など、教師として何もかも力不足な中、「子どもたちに申し訳ない。」と思い、悩むことも度々あった。

そんな時、声を掛けてくださったのが、管理職の先生方、初任者指導の先生方や先輩教師の方々だ。ある先生に、「たくさん準備をして、反省を少なくしていくことが大切だ。大変だけれど、すべては子どもたちのためだから」という言葉をいただいた。「すべては子どもたちのため」という思いは、これから続く長い教師生活の中で、「原点」として、忘れずに持ち続けていきたい。そして、この1年間で改めて学んだ「常に学び続ける謙虚さ」を胸に、子どもたちが学校へ来るのが楽しみになるような「居場所」をつかっていきたい。



いつも一緒に活動をしたり、温かく見守ってくれたりした先生。悩んだときは、背中をそっと押してくれた先生。そして今、私がこうして教壇に立つまでに至った、様々な出来事とともに思い出されるのが、今までお世話になった先生方だ。私が中学生の頃、私はこのような素敵な先生方と出会うことができた。そして、私も今まで出会ってきた先生方のようになりたいという思いと、子どもが大好きという気持ちから教師を目指した。

今こうして私が、教師として毎日教壇に立ち、毎日考えることは「毎日一度限り」という先輩の先生にいただいた言葉だ。「私たちはこれから先も、教師として働き続けていけるけれど、



子どもたちにとって、人生での中学校生活は3年間の一度限りなので、毎日を大切にしないと。」と話をいただいた。本当にその通りだと感じた。勉強や部活動、学校行事等、すべてが子どもたちにとって大切な一度限りのことであり、私もそのことを常に忘れずに真剣に子どもたちと向き合っていこうと強く心に決めた。

また、初任者として研修に参加させて頂いたり、校務を行うなかで、管理職の先生方や初任者指導の先生、先輩の先生方が授業や指導の仕方等を、丁寧に教えていただいたりとたくさんの支えを頂き、今の私がいることを改めて実感している。これからも、たくさんのことに感謝を忘れずに、私自身も子どもたちと学び続け、成長できるように邁進していきたい。